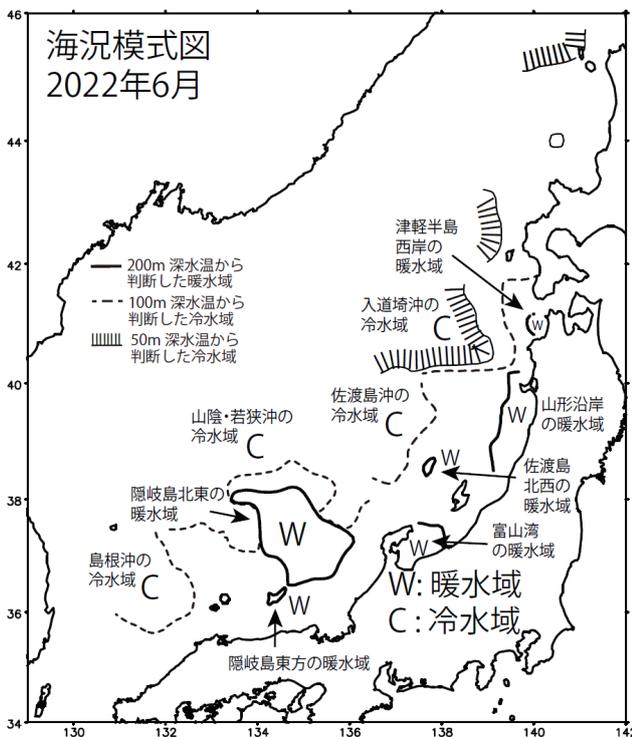




2022年度 第2回 日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2022年7月中旬～9月)のポイント



(註)用語の定義は以下のとおり。
”はなはだ”：出現確率約22年に1回、“かなり”：出現確率約7年に1回
”やや”：出現確率約3年に1回、“平常並み”：出現確率約2年に1回

○隠岐島東方の暖水域は弱体化し消滅する。隠岐島北東の暖水域はやや北上し隠岐島はるか北東に分布する。富山湾の暖水域は北東に移動し佐渡島北東に分布する。佐渡島北西の暖水域はやや南下し佐渡島西方に分布する。山形沿岸の暖水域は縮小し消滅する。津軽半島西岸の暖水域は東進し津軽海峡から流出する。

○島根沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平常並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は平常並みでかなり離岸で経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや小さくかなり離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくやや離岸で経過する。

○対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。

○対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに“平常並み”で経過する。

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜） 上原

海洋環境部（新潟） 渡邊、阿部

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2022年度 第2回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2022年7月中旬～9月）

- (1) 隠岐島東方の暖水域は弱体化し消滅する。隠岐島北東の暖水域はやや北上し隠岐島はるか北東に分布する。富山湾の暖水域は北東に移動し佐渡島北東に分布する。佐渡島北西の暖水域はやや南下し佐渡島西方に分布する。山形沿岸の暖水域は縮小し消滅する。津軽半島西岸の暖水域は東進し津軽海峡から流出する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は平年並みでかなり離岸で経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや小さくかなり離岸で経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくやや離岸で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに“平年並み”で経過する。

2. 経過（(1)は2022年3月～6月、(2)～(3)は2022年3月～5月、(4)は2022年3月）

- (1) 3月に隠岐島北東で見られた暖水域は6月まで停滞。若狭湾に見られた暖水域は4月まで停滞した後、5月に消滅。能登半島北方に見られた暖水域は4月まで停滞した後、北東に移動し、6月に佐渡島北西に分布。富山湾に見られた暖水域は6月まで停滞。山形沿岸に見られた暖水域は6月まで停滞。4月に隠岐島南東に暖水域が出現し、5月まで停滞した後、北東に移動し、6月に隠岐島東方に分布。能登半島はるか北方に暖水域が出現し、北東に移動した後、6月に津軽半島西岸に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、3月ははなはだ小さくはなはだ離岸、4月はやや小さくかなり離岸、5月はやや小さく接岸距離は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、3、4月はやや小さくやや離岸、5月はやや小さくかなり離岸。佐渡島沖の冷水域は、3、4月はやや小さくかなり離岸、5月はやや小さくやや離岸。入道埼沖の冷水域は、3月はやや小さく接岸距離は平年並み、4月はやや小さくかなり離岸、5月はやや小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、3月は、能登半島西岸、青森西方で“かなり低め”～“はなはだ低め”以外は概ね“平年並み”。4月は、山口北方～隠岐島北方、隠岐島東方～若狭湾、山形西方～青森西方で“やや高め”～“かなり高め”以外は概ね“平年並み”。5月は、山口沿岸、山形沿岸で“かなり高め”、新潟沿岸～佐渡島周辺で“やや低め”～“かなり低め”以外は概ね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“平年並み”。

3. 現況（2022年6月）

- (1) 暖水域は、隠岐島東方、隠岐島北東、富山湾、佐渡島北西、山形沿岸、津軽半島西岸に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、やや小さく接岸距離は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、やや小さくはなはだ離岸。佐渡島沖の冷水域は、規模は平年並みでやや離岸。入道埼沖の冷水域は、かなり小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、山口沿岸、隠岐島周辺、越前沿岸で“かなり高め”以外は概ね“平年並み”～“やや高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“やや高め”。

（註）用語の定義は以下のとおり

- | | |
|----------|---|
| ” はなはだ ” | : 標準化した数値の絶対値が 2.0 を超える（出現確率約 22 年に 1 回） |
| ” かなり ” | : 標準化した数値の絶対値が 1.3 を超え且つ 2.0 以下（出現確率約 7 年に 1 回） |
| ” やや ” | : 標準化した数値の絶対値が 0.6 を超え且つ 1.3 以下（出現確率約 3 年に 1 回） |
| ” 平年並み ” | : 標準化した数値の絶対値が 0.6 以下（出現確率約 2 年に 1 回） |

標準化に用いた平均値と標準偏差は 1986～2015 年のデータから算出

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産研究所	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所